# インバータ出力周波数（主速周波数）リモート設定評価

DL850Eの詳しい情報はこちら
GS820の詳しい情報はこちら

## 概要

インバータには、出力周波数を制御するための入力端子があり、各種電流・電圧入力に対応されている。
入力された電圧・電流に対して、インバータの出力周波数が、仕様どおりにリアルタイムに変動するかを試験・評価する。

## アプリケーションのポイント

マルチチャネルソースメジャーユニットGS820は、プラス領域からマイナス領域にまでに対応したインバータ用負荷電圧（0～5V,1～5V,0～10V,-10V～+10V,-5V～+5V）のみならず、電流（4～20mA,0～20mA）も、2ch独立して高精度にプログラマブルに出力し、USBストレージ機能によりインバータへの制御信号最大100,000パターンを特別なソフトウエアを作ることなく、容易に出力ができる。と同時に、高速データアクイジションユニットSL1000及びスコープコーダDL850Eにおいて、それらの相関を確認できる。市販バイポーラ電源では、電圧・電流発生確度が1～2%のために、本評価には対応出来ない。またシーケンスステップも最大255パターン、PC制御出来ないなど、GS820の機能・仕様は、本評価において大きなメリットとなる。

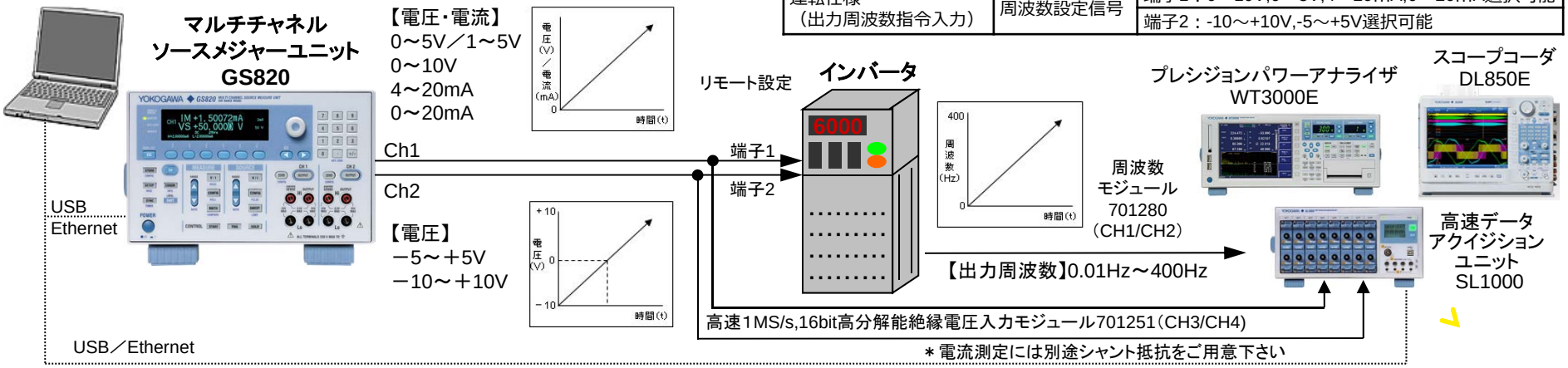
## 特長

【マルチチャネルソースメジャーユニットGS820】
- 独立2チャネル発生＆測定
- 高精度：±0.02%（直流電圧発生）／ ±0.03%（直流電流発生）
- 簡単プログラマブル設定（USBストレージ）
- シーケンスステップ：最大100,000
- 最大出力電圧：±18V（18Vレンジモデル）、±50V（50Vレンジモデル）
- 最大電流出力：±3.2A（18Vレンジモデル）、±1.2A（50Vレンジモデル）
- ソース動作／シンク動作による4象限動作可能

【高速データアクイジションユニットSL1000／スコープコーダDL850E】
- 電圧・周波数・温度など多彩なプラグインモジュール
- 最大16チャネル入力可能
- 長時間記録を実現
- ロングメモリを瞬時に表示するGIGAZoomエンジン

**【インバータ基本仕様（周波数関連事例）】**

| 項　目 | | 仕　様 |
|---|---|---|
| 制御仕様 | 周波数出力範囲 | 0.01～400Hz |
| 運転仕様（出力周波数指令入力） | 周波数設定信号 | 端子1：0～10V,0～5V,4～20mA,0～20mA選択可能 |
| | | 端子2：-10～+10V,-5～+5V選択可能 |





Copyright © Yokogawa Meters & Instruments Corporation